

グッドバイ・飯塚さん

後藤隆徳

なんとも奇妙な感じだ。まだ、飯塚さんがホームページで笑っている。例のテンガロン・ハットみたいな帽子が似合う。ビアを片手に、今にも「会長！いや～、この間は参っちゃったよ、、、」と、山の話語りかけてきそうな錯覚をする。

飯塚さんは、ちょっぴりやんちゃで照れ屋で、ちょっぴりエッチで、大いに努力家でがんばり屋だった。

あっけらかんと、この間「A・Kのオッパイを掴んじゃった」なんて言う人だった。体が少し不自由だったが、鷲頭山の岩トレも頑張った。トップもこなした。目標がハッキリしているから努力は惜しまない人だった。

百名山達成で驚いたのが、巻機山日帰りがあった。当時とはとにかく、超早出・超遅着で2・3時出発は当たり前。帰着は23時頃もあった。山へ物凄い情熱だった。だが、その分人生を少し急ぎすぎたかもしれない。

初めて会ったのは事務所だった。秋山和子さんと高校が同級生で、ちょっと成人病気味なので、改善のため山を歩きたいと入会の動機を語っていた。大きな体躯でニコニコと現れ、自前のシュークリームとか、お菓子を皆に振舞ってくれた。当時はまだかなりの太り気味の体躯だった。

一緒に上った山で印象に残っているのは何と言っても、飯豊・朝日連峰、そして千本浜からの富士山頂である。

飯豊では初日、胎内ヒュッテに泊まった。飯塚さんが狩野川で釣り上げた立派な「鮎」を「生」で20匹持ってきてくれ、備長炭で丁寧に焼いてくれた。管理人に一匹上げて喜ばれた。これは最高のグルメでした。下山後、川入の民宿・小涼さん方の縁側で

飲んだビアの味は忘れられない。

朝日では、以東岳から見た大朝日岳と地平線が丸く見えたのを思い出す。天狗小屋で飯塚さんに「会長の大腿四頭筋は素晴らしい。ちょっとないね」と褒められた時は嬉しかった。ただ、女性のマッサージは不評でした。大井沢に下山後、民宿「橋本荘」の上がりかまちで、またビアをガンガン痛飲した。

千本からの富士山も傑作だった。加藤と私が先行する。飯塚さんと青山さんはゆっくり来る。須山手前で二人が行方不明。やばい、事故かと～思ったら、元会員宅で「お茶」でした。そんな、茶目っ気もありました。一緒ではなかったですが、冬の屋久島も感動的で貴重な記録でした。

私がとても残念だったのは、ちょっとした言葉の行き違いで、10周年レセプションに飯塚さんが不出席になったことです。私は正論を言ったつもりでしたが、飯塚さんは辞退してしまいました。私がまとも過ぎたかと思いました。

飯塚さんが残した言葉で印象的だったのが、「常に備えよ」でした。何処かの山に上った時の反省だったと記憶していますが、飯塚さんらしい言葉と今も思っています。飯塚さんは装備の工夫とか、ルート・地図の研究とか、キッチリと納得するまで励む人でした。

しかし、自分の体のケアはどの位だったか、今となっては無念でなりません。ご両親の面倒、店の経営・運営、山も上りたい、ほかの稽古事もあった。余りに多忙で、知らず知らずの内に体が蝕まれていったかも知れない。

とにかく会としては貴重な存在・キャラクターを失った損失は計り知れず残念無念、慙愧（ざんき）に耐えない。

飯塚さん、先に天国でいい山を捜して下さい。そのうち行きます。そしたら、みんなで「霊峰山の会」を作りましょう。飯塚さんはNO. 1だから、会長ですね。

「グッドバイ・飯塚さん」、。。。 (合掌)

飯塚周一さんの思い出

秋山和子

1月28日の夜、飯塚さんの訃報が届きました。

「何故？ どうしたの？ 何が起こったの…」あんなに元気でいつもハツラツとして、体中、健康で満ち溢れていたような方が、突然、倒れたというのです。

翌日、息子さんから 工場のボイラー脇で倒れ、そのまま回復しなかったということを引ききました。脳溢血？ いろいろと考えますが、日常的に登山のためにと訓練を欠かさず、常に健康に留意していたことを思うと残念でなりません。

菓子業の主は、いつものように早朝より今日の分の仕込みやら段取りをすべく工場に入ったことでしょう。このところ氷点下の朝が続いていたのですが、山男は寒さなど何の敵ではありません。今日も美味しい菓子作りと 始めたことでしょうに。

昨年の10周年記念誌を改めて開いてみますと、「私の百名山」として飯塚さんのエッセイがあります。50代の10年間で、100名山踏破を記念事業に掲げ、その通り実行したのです。れいほうの仲間達と登ったことがたくさん書かれています。私も幾つか一緒に行きました。楽しかった山行が次から次へと浮かびます。

完登の記念の山が筑波山で、バス1台で多くの会員と賑やかに登りました。頂上でお祝いパーティーが催され、大変盛り上がったそうです。満足げな飯塚さんの姿を想像して（私は都合で同行できなかったので）、「目標達成おめでとう。」60歳！ 情熱の男 よくぞ頑張りました。と家で声をあげました。……………記念品のピッケルは 今は彼の傍らで眠っています。……

店の休日の関係で、会山行（日曜日中心）には余り参加されていませんが、お菓子を持って会合などにひょっこり現れては、皆を喜ばせてくれました。伊豆市誕生を祝っての「伊豆サブレ」は、試作品から味わいました。アイデア商品をよく生み出しては、店を盛り上げていた彼ですが、この「伊豆サブレ」が最後の新製品となりました。縁がありましたら一度召し上がってみてください。店は修善寺駅近くの「紅粉屋」です。

「健康が全てでは無いけれども、健康でなくては全てが無い」
10年間登山を通じて感じた事として飯塚さんが残した言葉です。